

かくだ市議会だより



第401回定例会

- 質疑・討論 2～3
- 予算審査特別委員会 4
- 議案審議結果 5
- 一般質問 6～10

角田市議会から

- 議員相互間の自由討議 11
- 議会日誌 11
- 新型コロナウイルス感染症の
予防等について 12

【今号の表紙】『楽園』

5月の小田川は野鳥の楽園になります。
魚を捕ったカワセミの子どもたちは食欲も旺盛で、撮影していても笑みが零れます。
自然を大事にして、いつまでもこの楽園が残ることを願っています。

《撮影》角田市小田 川名 正男さん

撮影日：2019年5月10日 場所：小田地内

表紙写真・イラスト等募集しています

詳細は角田市ウェブサイト内「かくだ市議会だより表紙写真・イラスト等募集」をご覧ください。



第401回
2月定例会

第401回定例会は2月19日から3月16日までの27日間の会期で開かれました。

一般質問では9人の議員が、市政全般にわたり論戦を繰り広げました。

市長から提案のあった条例の制定・改正、補正予算、新年度予算などの議案29件を原案のとおり承認・可決し、人権擁護委員の候補者の推薦に係る諮問1件を適任と答申しました。

また、議員提出議案が2件提出され、審議の結果、原案のとおり可決しました。

■一般・特別会計補正予算一覧
(単位：千円)

会計区分	補正額(2月)	補正後の額	
一般会計	6,715,470	23,287,899	
特別会計	国民健康保険事業	146,493	3,491,196
	後期高齢者医療	-9,533	335,406
	介護保険	-25,104	3,177,416
	公共下水道事業	-44,793	1,255,841
	農業集落排水事業	-955	110,224

■一般会計の主な補正予算項目
歳入(収入) (単位：千円)

項目	補正額
災害等廃棄物処理事業充当債	2,509,600
災害等廃棄物処理事業費補助金(国庫補助)	1,978,129
公共土木施設災害復旧事業費負担金	886,655

歳出(支出) (単位：千円)

項目	補正額
災害等廃棄物処理事業	3,966,127
災害復旧費	1,591,646
農業経営対策事業	550,750

議案
第2号

一般会計補正予算(第9号)

防災・減災構想策定
業務委託料

昨年台風第19号による浸水被害が大きかったことから、防災・減災に関する構想を策定するもの。

この対象地区は、裏町地区のみか。

台風第19号豪雨による災害では、公共土木施設や農林土木施設の被災に加え、市内各所で家屋が浸水し、甚大な被害が発生した。浸水被害の防止又は減災のための対策を講じるため、被害の大きかった裏町・左閩・岡・江尻・野田・枝野地区の防災・減災対策の検討を行う。

農業用施設補助災害
復旧事業

昨年台風第19号により被災した農業用施設について、市からの災害報告に基づき、農林水産省から補助により、復旧を図るもの。

農業用ため池「赤生ため池」の復旧方法は。

復旧事業を担当している大河原地方振興事務所と小田川の管理者である大河原土木事務所との協議の結果、ため池の堤体部と河川内の構築物を撤去し、併せて、地蔵堂地区の受益農地上流部に井戸を設置し、異常気象等による用水量不足に対応できるようにする。

議案
第79号

角田市教育に関する事務の職務権限の特例に関する条例の制定

持続可能な地域づくり実現に向けた自治センターへ

人口減少・少子高齢化による地域課題に対して、公民館事業と防災・福祉・健康等の事業が一体的に取り組めるよう、教育委員会が所管する公民館を、市長が管理・執行するため、条例を制定するもの。

《審議経過》

この件について、議長から教育委員会へ意見を求めた結果、異論のない旨の回答を得ていた。しかし、議会としては、各自治センター長の十分な合意を得ておらず、自治センターの将来像が不明瞭等のことから、前定例会からの継続調査としていた。

反対討論……日下 七郎

公民館事業を市長部局で実施し、自治センターを市長管理の公の施設へとした後、令和3年度に、市長部局の事務を民間の地区振興協議会へ移行すると側聞した。これでは、自治センターの準備が整わず、地域に混乱を招き、市民の信頼と地域の担い手を失う。

賛成討論……武藤 広一

各行政区長や自治センター長等に説明し理解が得られた。自治センターを市長部局に移すことで、東日本大震災や昨年の台風第19号災害などの有事の際に、各自治センターが防災拠点の要となり、迅速で細かな対応が可能となる。

反対討論……小湊 毅

本議案は、今後の自治センターのあり方を大きく左右するものである。地域の方と十分に検討し、合意形成されるべきものであるため、今年1年十分に検討し、具体的にどのようなのか、明確になった後に、市長部局へ移管するか否かを判断するべきである。

賛成討論……柄目 孝治

地域に必要な事業や、地域のコミュニティ活動等が円滑に行えるよう、自治センターの体制整備を確立し、地域の諸課題に対し、1年かけて地域とともに議論する大切な時間を設けていくとのこと。持続可能な地域づくり実現に向け、着実に遂行するために必要な条例改正である。

議案
第14号

市立学校条例の一部改正 市立小・中学校の統廃合

角田市における少子化による小・中学校の小規模化の進行により、教育環境への様々な課題が生じることが懸念されている。本議案は、次世代を担う子ども達のための教育環境を整備するため、「角田市学校の適正規模等に関する基本構想」に沿って、所要の改正を行うもの。教育厚生建設常任委員会における審査では、「原案否決すべきもの」と決したが、本会議の表決においては、「原案可決」となった。

- ①東根小学校を桜小学校へ統合……令和3年4月1日施行
- ②西根小学校を北郷小学校へ統合……令和4年4月1日施行
- ③金津中学校を角田中学校へ統合……令和4年4月1日施行
- ④枝野小学校と藤尾小学校を統合し、金津小学校に再編……令和5年4月1日施行

教育厚生建設常任委員会での質疑

問 学校適正規模検討委員会では、コミュニティのあり方について、深い議論がなかったと思うが。

答 自治センターが地域コミュニティの役割を担っていく。学校が無くなる地域も出ることから、地域の方々と協議していく。

問 学校統廃合する学校では、交流事業を実施するのが、過去の事例を参考に計画を立て、学校と事前に調整し、授業の一環として、計画通りに交流事業を実施する。

問 少子化を食い止める個性的な学校づくり、他から入学希望のあるような角田市のビジョンはあるのか。

答 角田市長期総合計画を策定する中で、子育て施策、少子化対策等を盛り込む必要があると考えている。



▲教育厚生建設常任委員会のような

本会議における討論



賛成
小島 正

角田市学校の適正規模等に関する基本構想の議決、更に各地区住民説明会・保護者説明会・アンケート調査・パブリックコメントを実施し、十分な検討がなされている。少子化・学校施設の老朽化・複式学級出現の現状を踏まえ、子ども達のため、早期に教育環境を整える必要がある。



賛成
武藤 広一

人口減少・少子化が進む中、当市においても複式学級等の小規模校が複数出現すると想定され、次世代を担う子ども達の教育環境を早期に整備する必要がある。12回に及ぶ「学校適正規模検討委員会」が出した「角田市学校の適正規模等に関する基本構想（案）」を尊重し、子ども達の学力向上等を最優先に考慮し、クラス替えの出来る環境（一定の集団）で学ばせることが、上位の学校や社会人になるための重要なプロセスである。

小学校・中学校を失った地域に子育て世帯が戻ること

は難しく、過疎化が一層加速される。ましてや、よりよい教育環境、自然環境を求めてIターン・Uターンする家族もなくなり、地域コミュニティが簡単に壊されていく事態（ひいては、住民自治の後退）が出現することが容易に想像される。このように、地域を壊すこと（まちこわし）を許して本当にいいのか。角田市の人口減少に、さらに拍車がかかることが必然ではないか。



反対
八島 定雄



反対
武田 暁

枝野小学校と藤尾小学校を再編し金津小学校とする第二次行動計画までを一気に決定しようとする案だが、対象校の保護者や構想策定に携わった検討委員から強い疑義が示されている。統廃合のプロセスの中でしっかりと交流事業等がなされたか否かを保護者が検証し、十分であると認められた際にワンステップずつの条例改正がなされるべき。検討委員にもこの点の説明を欠いていることから、委員長報告が示した「否決すべきもの」との判断を尊重すべき。



反対
菅野 マホ

約一年半の検討委員会のご尽力に感謝申し上げます。私は、急がずにもう少し時間をかけるべきだと思う。「学校統廃合」は、角田市の将来の土台となる重要な問題。「少子化問題」・「子育て支援」・「個性ある学校づくり」・「校舎の跡地利用」他、多くの問題がまだ話し合われておらず、統廃合に角田市のビジョンも、また子ども達の明るい未来も見えて来ない。一旦立ち止まり、まず、最終ビジョンと、ポジティブな発想の転換が必要と思ひ、早急な条例改正に反対する。

令和2年度
予算

令和元年台風第19号の被災公共施設
1100カ所の復旧の財源確保が課題

2月28日に設置された予算審査特別委員会は、6日間にわたり審査を行いました。
質疑については、従来、3つの分科会に分かれ行っていました。今回から、全委員で質疑を行いました。

問 ふるさと納税寄附金について、昨年度の5倍の5億円を予算に計上しているが。

答 ふるさと納税は安定的な財源ではないが、昨年の台風第19号による災害からの復興のために重要な財源となった。

返礼品については、定期的に入れ替えを行い、地元企業の電化製品のほか、引き続き、新たな農作物商品等の出品の調整を進め、寄附金の確保に努める。

問 大雨に備え、県管理河川高倉川の草木の伐採等は行わないのか。

答 花島地区の二枚田橋から下流について、樹木の伐採を県で行った。その他の箇所についても要望していく。



▲高倉川の繁茂のようす

問 地域づくり総合交付金に組み込まれると説明のあった保険の対象は行政区長だけか。

答 令和2年度から地域づくり総合交付金に盛り込んだ自治会活動保険は、行政区会が行う活動のリスクを包括的に補償する内容で、行事活動中の第三者への身体への障害、財物事故、住民の方の傷害保険、住民の方以外への障害見舞金等に対応していることから、行政区長以外の住民の方等にも適用となる。

討論

令和2年度 角田市一般会計予算

反対討論……日下七郎



地域経済の振興、雇用の確保により、市民の所得を向上させ、市民税を確保すべきで、今回の施政方針には、あるべき姿が欠落している。

また、「角田市保育施設等統廃合基本計画」や「角田市学校の適正規模等に関する基本構想」により、公共施設を市の中心部に設置することは、廃校の地域の高齢化が更に進む。
更に、行政区長の身分を私人として、行政区設置規則の職務に従事させるのではなく、地方公務員法の規定に基づく条例を制定し、身分を保障することを求めて、反対討論とする。

賛成討論……小島 正

令和2年度の施政方針には、①台風第19号災害からの迅速な復旧と被災者の生活再建支援の推進、②防災・減災事業の実施による災害に強いまちづくりの推進、③公共施設やコミュニティの再編とコンパクトで住みやすいまちづくりの推進、④農工商・観光・スポーツ・文化の連携による活気あるまちづくりの推進とあった。

非常に厳しい財政状況の中で、確実な財源を確保するとともに、行財政改革の確実な推進等による持続可能な市政運営に、いずれも必要不可欠な予算であり、賛成する。

反対討論……武田 暁



新設される角田市行政区運営協議会委員報酬予算について、令和2年度から私人として活動する区長を義務的に委嘱し、特別職の非常勤公務員とするとのことだが、区長として活動する際にはその身分は及ばないことを確認している。形骸化、区長の負担増、必要性の低い予算執行となる恐れがあり、何らの合理性を持たない。

また、道の駅かくだ管理運営事業として、屋根付き広場への遮熱対策工事、風徐室工事としての921万円については、裏付けデータもなく、非常に疑問を感じる。

賛成討論……柄目孝治

人口減少・少子高齢化等、社会構造の急激な変化に加え、頻発する自然災害対応等の重要な政策課題を抱える中、行政改革の推進はもとより、基金の維持、市債発行の適正化など、確実なる財源の確保を念頭に置き、持続可能な行政運営に真摯に配慮された予算編成となっている。

また、行政区長が果たす役割の重要性に鑑み、角田市行政区運営協議会を設置し、地方公務員法第3条第3項第2号に基づく特別職非常勤職員として委嘱し、幅広く市民の声を聞く体制へとされたことを評価する。

議案審議結果

議案審議結果一覧

賛成と反対がわかれたもの

○…賛成 ×…反対 ……退席又は欠席

会議名	提出者	議案番号	件名	審議結果 (賛成:反対)	市民クラブ		志政クラブ		日本共産党 角田市議員	創生会		令和の風		無会派			
					星守夫	小島正	湯村勇	堀田孝一	武藤広一	黒須貫	日下七郎	八島定雄	小湊毅	武田暁	菊地利衛	菅野マホ	馬場道晴
第401回定例会	市長	議案第79号	角田市教育に関する事務の職務権限の特例に関する条例の制定について	可決 (10:5)	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	×	
		議案第9号	角田市附属機関の設置等に関する条例の制定について	可決 (10:5)	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	×
		議案第11号	職員定数条例の一部改正について	可決 (13:2)	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○
		議案第12号	議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部改正について	可決 (13:2)	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○
		議案第13号	特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について	可決 (10:5)	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	×
		議案第14号	市立学校条例の一部改正について	可決 (8:7)	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	×
		議案第16号	令和2年度角田市一般会計予算	可決 (10:5)	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	×
		議案第17号	令和2年度角田市国民健康保険事業特別会計予算	可決 (13:2)	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○
		議案第18号	令和2年度角田市後期高齢者医療特別会計予算	可決 (13:2)	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○
		議案第21号	令和2年度角田市水道事業会計予算	可決 (13:2)	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○
議案第22号	令和2年度角田市下水道事業会計予算	可決 (13:2)	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○		

議長（渡邊 誠）は採決に加わらない。

全員が賛成したもの

会議名	提案	議案番号	件名
第401回定例会	市長	諮問第1号	人権擁護委員の候補者の推薦について
		議案第1号	専決処分の報告並びにその承認を求めることについて（令和元年度角田市一般会計補正予算（第8号））
		議案第2号	令和元年度角田市一般会計補正予算（第9号）
		議案第3号	令和元年度角田市国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）
		議案第4号	令和元年度角田市後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）
		議案第5号	令和元年度角田市介護保険特別会計補正予算（第5号）
		議案第6号	令和元年度角田市公共下水道事業特別会計補正予算（第6号）
		議案第7号	令和元年度角田市農業集落排水事業特別会計補正予算（第5号）
		議案第8号	令和元年度角田市水道事業会計補正予算（第6号）
		議案第10号	角田市公共施設強化対策基金条例の制定について
議案第15号	給水条例の一部改正について		

会議名	提案	議案番号	件名	
第401回定例会	市長	議案第19号	令和2年度角田市介護保険特別会計予算	
		議案第20号	令和2年度角田市東根財産区特別会計予算	
		議案第23号	債権の放棄について	
		議案第24号	角田市道路線の廃止について	
		議案第25号	角田市道路線の認定について	
		議案第26号	角田市第5次長期総合計画基本構想の変更について	
		議案第27号	令和元年度角田市一般会計補正予算（第10号）	
		議案第28号	岩沼市外一市三町水道水質検査協議会を組織する地方公共団体の数の増加及び岩沼市外一市三町水道水質検査協議会規約の変更について	
		議員	議会議案第1号	角田市議会委員会条例の一部改正について
			議会議案第2号	角田市議会の議員の議員報酬、費用弁償等に関する条例の一部改正について

東日本大震災から9年

令和2年3月11日、東北地方を中心に未曾有の被害をもたらした東日本大震災の発生から9年を迎えました。

東日本大震災でお亡くなりになりました方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

角田市議会では、3月11日の午後2時46分に1分間、犠牲となられた方々に対し哀悼の意を表すべく、黙とうを捧げました。



▲議場で黙とうを捧げました

人権擁護委員の候補者の推薦

《再任》今野林一郎（君萱行政区）

○任期 令和2年7月1日～
令和5年6月30日

皆さんからの陳情

- 北角田中学校区通路の安全確保及び学校施設整備を求める陳情
- 北角田地区学校教育振興会 副会長 玉手 信一
- 平貫地区の排水対策に関する陳情
- 角田市平貫区会 会長 菊地 保次

一般質問とは、角田市のさまざまな課題等に対して、市長や教育長などに対し、事務の執行や将来の考えなどを質すことです。
質問した議員ごとに要約してお知らせします。

質問議員 (質問順)	質問項目	頁
小湊 毅	災害復旧状況と今後について	6
武藤 広一	令和元年東日本台風による大・中・小河川及び排水機場等の検証と対策について	7
小島 正	自然災害の対応について その他の質問 ・企業誘致について	7
武田 暁	市民とのコミュニケーション、対話について	8
八島 定雄	いまこそ「必要な事前防災と減災に資する施策」の可及的すみやかな推進に関して その他の質問 ・教員の「1年単位の變形労働時間制」導入について	8
堀田 孝一	市長の所信について	9
日下 七郎	阿武隈川緊急治水対策プロジェクト（河川における対策）について その他の質問 ・環境保全型農業直接支払交付金について ・角田市地内の阿武隈川支流の内水被害対策について ・あぶくま川水系角田地区土地改良区の揚水機場・排水機場の災害復旧費の分担金への財政支援について	9
馬場 道晴	胃がん検診での、胃内視鏡検査（胃カメラ）の選択について サポカー補助金について 災害時の情報発信について 子育て支援について Wi-Fiの整備について	10
黒須 貴	仙南地域医療構想の推進について その他の質問 ・市民と共に創る安心・安全な角田市について	10

議員▼昨年10月の台風第19号の後、復旧作業に御尽力頂いているが、最も心配なのは山間部の水田である。田植えまでに復旧すると説明を受けてきているが、復旧工事が田植えに間に合わないのではないかと？

市長▼昨年12月より水稲作付に支障となる排水路の浚渫作業を行っている。山間部の被災現場は、施工が困難な場所もあり、思うような進捗が図れていない。田植えに間に合わない状況が生じる可能性があるため、農家の方から相談頂いた際には、個別に対応していく。

議員▼種もみや農薬等を購入する時期になっており、購入するか否かを悩んでいる方もいる。どのような対応をするのか。

市長▼既に購入された種もみ等については、返品できると伺っている。販売店に御相談頂きたい。復旧が作付に間に合うかについては、お問合せ頂ければ個別に対応させて頂きたい。

議員▼農家の皆さんが判断できるようにする為に、個別の工事箇所の手配スケジュールが必要ではないか。

市長▼山間部は被害箇所が大変多く、重機が入らない箇所もある。早く進めて欲しいという要望があれば個別に相談に乗っていく。農道あるいは水路の復旧作業が間に合わない場合、御自身で仮設等を作って田植えする場合は、事前に御相談を頂き、収穫後に農道、水路の本格的な復旧作業を行う。

議員▼笠島川は、笠島公民館の南側を蛇行し、この地域が大雨の際に被害を受ける。川を真っ直ぐにすれば被害が生じなくなるかと考えるが、このような対応を検討する考えはあるか。

市長▼昭和54年・55年の県営ほ場整備事業で、現在の形に整備された。今の流れをそのまま生かして、越水被害等々が起きない対策をしっかりとやるのが当面やらなければなら

ないものだと考えている。将来的な課題として扱って欲しいということだが、地元の方々から話は直接お伺いしていないので、話し合いをしたい。

議員▼滝地区や山田沢地区は、大雨の際に被害が出る地域である。道路沿いに設置されている排水路が余りにも脆弱で、大雨の際に受け切れる状況にない。大雨に対応できるようにする考えはあるのか。

市長▼この2の路線は、これまで幾度か被害が出ている。側溝が狭く、道路を乗り越えて、反対側の崖面が崩れている。抜本的な対策が必要だと感じている。災害の復旧工事は原状復旧が原則で、それに対して国の補助が出るという仕組みなので、改良型の復旧となれば二重の経費がかかることになる。将来に向けてどう改良すべきかを改めて検討した上で事業計画を作っていく必要があると思っています。



災害復旧状況と今後について

小湊 毅



令和元年東日本台風による大・中・小 河川及び排水機場等の検証と対策について

武藤 広一

議員▼大・中・小
河川や排水機場の排水能力について、検証と対策をどのようにするのか問う。
市長▼市内各所で河川の
内水氾濫により家屋が浸
水し、甚大な被害が発生
した。再度の浸水被害の
防止、減災対策を講じる
ことが最重要課題と考
える。被害の大きかった
裏町地区、左閘地区、岡
地区、江尻地区、野田
地区、

枝野地区の6地区につ
いて検証を行い、防災・
減災構想を策定する。
議員▼6地区以外の
検証はどうか。
市長▼各河川、国道、
県道等、幹線道路が冠
水した。特に排水機場
の問題が大きいので、
江尻排水機場を中心
に、各河川や各排水機
場等の改修を国・県・
土地改良区と連携し、
一体的改良整備を視
野に入れて進め、財政
面も加味しながら総合
的に判断したい。
議員▼阿武隈川の河
道掘削について承知し
ているか。
市長▼国の阿武隈川
緊急治水対策プロジェクト
により、上流は角田の
枝野地区から、下流は
白石川の合流地点付近
まで河道掘削すると承
知している。
議員▼宮城県管理の
隈西地区及び隈東地区
の河道掘削や堤防工事
について承知している
か。
市長▼高倉川は、江
尻地区内から高倉地
内の樹木伐採と河道掘
削を、半田川は、藤田
地区内の河道掘削を、
小田川は、小田字鹿
島地区内の河道掘削を、
尾袋川は、江尻地区内
の河道掘削を実施予
定など、補正予算で早急
に流下障害原因の解消
を行う予定となっている。
また、桜井川、新桜井
川、雑魚橋川について
現時点で計画は

ないが、雑木等の繁
茂等が随所に見られる
ため、早急に流下障害
原因の解消を行うよう
要望したい。
議員▼角田市管理
の河道掘削や堤防工
事について問う。
市長▼笠島川、山田
沢川、雑魚橋川、鬼
平太川、庄司堀川、
千海田川は、災害復
旧工事を実施し対応
する。本格的な河川
改修や河道掘削、あ
るいは堤防補強等につ
いては、今後策定予
定の、防災・減災構
想の中で検討する。
議員▼江尻排水機
場をはじめ、各排水機
場や排水樋門について
早急に排水能力を検
証し、県や土地改良区
と協議し、場合によ
っては国・県に排水能
力強化の要請をする
必要がある。市長の
所見を問う。
市長▼江尻排水機
場については、国・
県に対し排水能力の
強化について要請し
ている。農水省で令
和2年度に、今回の
災害の雨量・排水等
の解析を予定してい
る。引き続き、関係
機関との協議を継
続し、情報を共有し
ながら排水対策を講
じたい。
議員▼今回の教訓
を地域防災計画にど
のように盛り込むの
か。
市長▼地域防災計
画ではなく、現在策
定を進めている国土
強靱化計画に盛り
込む。



自然災害の対応について

小島 正

議員▼小田川の雨水
対策に関し、大沼地
区では、大雨が降る
たび農地が冠水する。
大沼堤防により角田
市街地が守られてい
ると言っても過言で
はない。氾濫を防ぐ
ため、決壊しない堤
防・排水路の整備を
図るべきではないか。
市長▼昨年の台風
第19号の際、過去最
大の雨量のため、堤
防を越えて市街地に
大量の水が流れ込ん
でしまった。これらの
被害を防ぐためには、
小田川の整備計画を
早く進めるとともに、
堤防のかさ上げ整備
や排水路の整備など
が対応策の一つと考
えられるので、検討
していきたい。
議員▼中谷地区は、
小田川の水位が上昇
すると水門が閉まり、
水は行き場を失って
自然排水ができず、
内水が広がる。この
ことについて、どの
ように考えているの
か。
市長▼市道大沼西
堤防線流地点に設置
してある水門につい
ては、小田川の

水位が上昇すること
で水圧等により自動
で扉が閉まる仕掛け
となっている。これ
は、小田川から中谷
地区への逆流を防
止するためである。
この水門により、中
谷地区内のさらなる
浸水被害が未然に防
止されることから、
大変重要な施設で
あると認識している。
しかし、水門を閉じ
てしまつと自然排水
ができなくなり、中
谷地区が長時間にわ
たって冠水するという
ことが問題であると
考えている。
議員▼中谷地区の
内水対策として、排
水ポンプを設置する
考えはないか。
市長▼まずは、小
田川の河道改修を早
急に進めていくこと
だと思つている。ま
た、小田川の水位低
下時に時間を要し、
内水が速やかに排水
されずに冠水期間が
長引くようであれば、
米の収量及び品質へ
の影響も懸念される。
このような長時間の
冠水被害が想定され
る際には、県や国に
対して排水ポンプ等

を要請するなどの
対応ができるのか、
関係機関と連携を
図りながら検討し
ていきたい。
また、かんがい排
水機場は、市で直
接つくることはでき
ないことから、排
水ポンプを持つて
きて排水をするとい
うことが対応として
すぐにもできるもの
だと考えている。
議員▼赤生ため池
が決壊したが、ため
池機能の効果を検証
しているのか。
市長▼赤生ため池
は、昭和の初期に造
成され、かんがい水
源として利用されて
きた。当初18haで
あった受益面積が、
今では11haまで減
少している。地元の
管理者に聞き取り
をしたところ、近年
では、河川が濁水し
たため池の用水を利
用した実績がない
というのであった。
赤生ため池の復旧
については、宮城
県の指導では、復
旧はしないので、別
な方法でかんがい
の水を確保していく
という方向で検討
を進めていること
である。



市民との「コミュニケー ション、対話」について

武田 暁

議員▼平成29年4月29日から「角田市広報」としてフェイスブックの運用が開始された。運用方針には緊急時の災害情報を掲載するところがあるが、台風第19号が角田市を襲った10月12日から13日にかけて情報発信がなされず、10月15日に災害関連情報としての角田市からのお知らせ（第1号）が掲載された。何故情報発信を行わなかったのか。

市長▼発災直後は状況確認に多くの時間と人員を要し、フェイスブックでの情報発信が遅れる結果となった。現在、運営体制の見直し等の検討を進めている。

議員▼上述10月15日に災害関連情報の投稿がなされる直前の投稿は、8月8日であった。およそ2カ月間にわたり、フェイスブックページの運用がなされず、放置していたと言わざるを得ないが何故か。

市長▼広報かくだの業務量が相当多いこと、また、広報業務の担当職員4人のうち1人が9月に退職し、退職者分の職員補充ができない状況にあったため、十分な情報発信が出来なかつたと反省している。

議員▼フェイスブックには単にイベントの告知や市が投稿したい情報だけでなく、市民の皆様が欲する情報を分析し、タイムリーに発信すべきではないのか。

市長▼毎月定期的にお知らせするものは、ホームページをご覧頂くことで足りると思っております。定期的に広報に掲載できないような事業はSNSを使って有効に情報を発信することは必要だと思っております。

議員▼職員がSNSを利用することは結構だが、誤った行政関連情報の投稿等が散見された。角田市の名誉を傷つける恐れもある。職員に対してどのような教育ないしは研修等を行っているのか。

市長▼以前に御指摘を頂いたので、部課長会議等において訓示をしているところですが、また基本的なマニュアルをつくることが必要かと思っております。早期に体制整備を進めたい。

議員▼本年1月に市内各地で議会報告会を行い、台風被害等について多くの御意見を頂戴する中で、当局主催のまちづくり懇談会開催を望む声があった。一昨年在最後に開催されていないが、再開すべきではないか。

市長▼昨年については、学校再編を巡る各種会議、行政区長、自治センター関係の話し合い、議員選挙等があったことや、区長も含めた地域の方々の負担が大きいため取り止めた。令和2年度は防災・減災計画、国土強靱化計画、長期総合計画の策定の年に当たるため、それをテーマに進めたい。

議員▼「全ての市民に漏れなく災害情報伝達を」の視点が大切と考えるが、見解を問う。

市長▼パソコンや携帯電話、スマートフォンをお持ちでない方への対応について、現在のメール配信システムを更新し、今年4月より、自宅の固定電話、ファクスに情報発信するためのシステム

いまこそ「必要な事前防災と減災に資する施策」の可及的速やかな推進に関して

八島 定雄



を導入する予定。全ての市民に情報を伝達することは大変重要であるが、一方で、難しいことでもある。テレビのデータ放送や広報車での避難の呼びかけ、消防サイレンの活用など多種多様な方法を用いた情報伝達手段について、今後も検討してまいりたい。また、自主防災組織など地域の方々の声かけや消防団による広報活動など、地域コミュニティによる情報伝達も大変重要であるので、引き続き、体制の強化に取り組む。

議員▼令和元年台風第19号災害において、どのような課題・反省点があったのか。

市長▼今回の災害対応について、可搬式排水ポンプを事前に配置し準備はしていたものの、予想はるかに上回る雨量であったため、被害を防ぐことが出来なかつた。ポンプの台数不足、能力不足、老朽化や整備状態の確認不足、また、災害箇所が多岐にわたったことから、ポンプの移動、設置に係る連絡・調整の対応がうまく取れなかつたなどの課題があった。今後、解決に向けて検討したい。

議員▼横倉字関ノ内36-1地内の市道においては頻りに冠水する。その原因と改善方策について問う。



市長の所信について

堀田 孝 一

議員▼大友市長は就任以来、本市の将来を見据え一貫して「小さくともキラリと光る誇りの持てるまち」を基本理念とし、「人と地域が輝く田園交流通都市かくだ」の実現を目指し、強い意志と行動力で、数々の諸課題に精力的に取り組みられてきたことは、万人が認めるところである。また、角田

市の人口と経済が縮減する中で、着実に施策の実行成果を上げている。一方で、市長就任後の翌春には島田地区の林野火災、平成23年には東日本大震災、さらには、昨年の台風第19号による豪雨と、災害対応にも多忙を極めた11年半であったと思っている。特に、昨年の台風第19号の豪雨では、市長は先頭に立ち、昼夜を問わず災害対応に尽力され、緊急対応は図られたが、台風第19号の爪痕はいたるところに残り、未だに手付かずのところも多く残っている。これらが復旧、復興の正念場である。また、この様な災害を二度と繰り返さないためにも、防災・減災、国土強靱化を緊急の課題として、取り組まなければならぬ状況にある。そこで市長に問う。本年夏には、任期満了による角田市長選が予定されているが、4期目に向かって出馬する考えがあるのか。

市長▼私の3期に及ぶ市政運営について、有難い評価をいただき、また、激励をいただいたことに感謝申し上げます。さて、本年夏に予定されている市長選に出馬の意思があるかとの事だが、現在、角田市にとって最重要課題となつている案件について審議をいただいている。また、台風第19号災害対応、新型コロナウイルス感染症対策、そして、新年度の行政執行への準備等々大変重要な課題を抱えている時期である。従つて、出馬するかどうかの発表については、本日は控え、本会議の最終日に持ち越しをさせていただく。

議員▼市長は33年勤務した市職員を辞され、3期市のかじ取りとして市政運営に力を発揮されました。しかし就任以来、幾度の災害対応に頭を悩まされ、人には言えない苦悩を抱えながらの日々もあつたと思う。また、トップはいかなる理由があるかと、最終的に結果を問われる重苦しい立場であると思つている。さて、市長選の進退については、本会議の最終日との事だが、何か思いがあるのか。

市長▼今回の議会が、学校統合問題を含め、様々な大きな改革が行われることの結果を出す議会であり、市長として、これがつましくいかどうかを見極める議会だと思つている。毎回、大げさに言えば命懸けで議会に臨んでおり、結果を見ないことには気持ちの整理ができなく、理解願いたい。



阿武隈川緊急治水対策プロジェクト（河川における対策）について

日下 七郎

議員▼国土交通省東北整備局が台風第19号被害を受けた阿武隈川流域で大規模な治水対策を進める。「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」（河川における対策）（以後「プロジェクト計画」という。）の角田市内の流域については、阿武隈川の川底を削つて水位を下げる河道掘削が主であり、市長は、角田市内の台風第19号の豪雨による内水被害の教訓を反映していると思うのか、問う。

市長▼数量的なことは分かりませんが、国土交通省と話した中では、国は、支流の水が早く本流に流れるように、下流から重点的に河道掘削等を行っていく方向で、事業期間が6年ぐらゐのことである。

議員▼「プロジェクト計画」は、①～⑤であり、⑤には「市町村の実情に応じた減災の取り組み」があり、角田市については、「〇マイ・タイムラインについて住民への周知を強化する。〇土のうステーションや備蓄品の整備を強化する。〇自主防災組織との連携のあり方について検討。〇内水排水における施設の排水能力強化について、関係機関と協議していく。」とのことだが、角田市の積極的な計画があるのか。

市長▼プロジェクト計画は、国で方針を定めており、これに従つて、まず、県、市と協力しながら、進めていくことは、確認しており、今後も意見交換をしながら情報を密にしながら、進めたい。

議員▼再度の確認だが、「プロジェクト計画」⑤のうち「内水排水における施設の排水能力強化について、関係機関と協議していく。」ことについて、現在、角田市内の排水機場の排水能力は農業サイドの基準で一昼夜（24時間）冠水することを前提としているが、公共の排水基準という観点まで進める排水を協議することと思つているが、市長に問う。

市長▼そのとおりだと認識している。



胃がん検診での、胃内視鏡検査（胃カメラ）の選択について

馬場道晴

議員▼胃がん検診での胃内視鏡検査（胃カメラ）を選択方式として取り入れるべき。

市長▼本市では、胃内視鏡検査ができる医療機関が数力所あるが、1医療機関当たり取り扱い件数が2人程度で、希望者全員を対象にしていくのは大変難しい状況である。医師会等と相談しながら可能性を探っていききたい。

議員▼ピロリ菌の検査も取り入れるべき。

市長▼任意型検診では個人の判断で受診可とされている。全額自己負担のオプションで実施する方法は考えられる。今後検討したい。

サポカー補助金について

議員▼サポカー補助金の周知について問う。

市長▼まだ詳しい情報が市に入っていない状況です。よく調べた上で、広報がくだ、交通安全教室などの機会に、この制度の普及に努めてまいりたい。

議員▼サポカー補助金の乗せ補助の創設について

市長▼市として乗せ補助はまだ考えていない。どんどん普及していくと考えている。

災害時の情報発信について

議員▼災害時の情報発信について。パソコンや携帯電話、スマートフォンをお持ちでない方への対応は。

市長▼今回、ヤフーと協定し、自宅の固定電話、ファクスに情報を一斉配信して周知をする。そういうシステムをつくることにした。

議員▼防災ラジオの導入について問う。

市長▼FM局の開設費用だけでも多額の費用を要する。方法論として、固定電話への送信を考えた。

子育て支援について

議員▼スマートフォン向けの子育て支援アプリの導入について問う。

市長▼令和2年度は新規の事業に入れていない。財

政状況も考慮し早目に導入をしたい。

議員▼今回の新型コロナウイルス対策に限らず、妊娠届け出の際にマスクの配布を行うてはどうか。

Wi-Fiの整備について

議員▼「ヤフー防災速報」等の生活に欠かせないアプリの利用により、災害時や平時においてもさまざまな情報の送受信ができるようWi-Fiの整備が必要である。今後の公共施設におけるWi-Fi整備について問う。

市長▼指定避難所を中心としたサービス提供の検討を進めてまいりたい。

特に、台風災害のときに長期にわたり避難所として運用した市民センターとウエルパーク。災害発生時に防災の拠点となる本庁舎には、早期にサービス提供できるように努めたい。

仙南地域医療構想の推進について

黒須 貫



議員▼11月にみやぎ県南中核病院（以下「中核病院」という。）と公立刈田総合病院（以下「刈田病院」という。）の医療機能分化的方針が公表、1月末に厚生労働省より仙南地域の「重点支援区域」指定が公表され、今後、両病院の機能分化・連携を中心に、仙南地域

医療構想の急速な推進が予想される。

仙南医療圏のブランド

化として、一定期間滞在して心身をケアする「湯治とヘルスケアシステム医療ブランド「TOHJ」（仮称）」を創ることを提案する。

市長▼温泉を有する自治体に、提案があったことを知らせ、広域的に事業化する意向があれば協力したい。Kスポ、道の駅と連携し、スポーツ交流館の浴場を活用することも考えられる。

議員▼医療圏が無くなれば、地域医療は崩壊へ向かう。「重点支援区域」に指定された意義について、認識を問う。

市長▼両病院の機能分化・連携の推進、それにあわせて地域の病院間が機能分化・連携することで、仙南医療圏が全体として持続的、安定的に医療提供体制を確保していくことが大切である。

議員▼仙南地域医療構想への広域内自治体の取り組みと、財政支援を含めた展望について問う。

市長▼具体的には両病院の連携・分化構想ということになる。刈田病院は慢性期を受け持ち、ベッ

ド数を減らす。中核病院は救急・高次医療を中心に、ベッドをフル回転する。これで両病院の経営はかなり改善する見込みだ。国の基金も充てると聞くが、具体的には進んでいない。

議員▼患者の移動は広域にまたがる。方策を問う。

市長▼各自自治体地域交通の広域連携は、十分ではない。解決策として、民間によるバス路線の復活が考えられる。日中に空くスクールバスの利活用が提案されており、具体的な可能性を模索中だ。色々な方策を考えていく。

議員▼地域創世のためには、小児・周産期医療の確保は仙南医療構想の絶対要件である。認識を問う。

市長▼中核病院での11月以降の分娩継続を、2市7町の首長と、中核病院企業長とで宮城県知事に要望した。すぐに解決できる問題ではないが、東北大学と一緒にしっかり考え対応していく、との回答だった。また、東北医科薬科大学の卒業生は、まず地域に残るので、医師として確保する。不足している看護師の確保にも取り組む考えである。

議案第14号「市立学校条例の一部改正について」で、議員相互間による自由討議を行いました。

○通告者 菊地 利衛

通告内容（一部抜粋）

この議案は、先に示された「角田市学校の適正規模等に関する基本構想」に基づいている。

その「基本的考え方」は、「クラス替えが可能な規模にすること」、「地理的・地域的特性に配慮し既存施設を有効利用すること」、「通学支援をすること」としており、「児童生徒の教育の質の充実」あるいは「次代を担う子供たちの教育環境の整備」は、組み込まれていない。数合せによる、「クラス替えが可能な規模」の実現だけに留まっている。「学力向上」や「人間形成」のための教育など、ソフト面の充実が求められている。昨今、「特徴ある市の教育」、「子供たちが主役の教育」を基本構想の中に具体的に示すべきである。

また、地域のコミュニティについても、子供たち、そして地域住民に見えるように基本構想の中に示し、統合・再編と同時に進めていく必要がある。

統合・再編の第3次行動計画構想は、令和10年～15年度とされている。児童生徒の不安やストレスを少しでも軽減するために、期間を短縮する必要がある。

さらに、「小中一貫教育」は、学校規模の課題解決には繋がらないとしながらも、令和2年度内に基本方針を策定するとしている。基本構想が決定してからでは遅すぎる。小中一貫教育は、「人間形成に有効」との考え方があるとともに、小・中学生が同じ学校に通うことによって、スクールバスの運用も合理的になる。先入観なしで検討すべきと考えるが、各位の意見を求む。

発言者、発言内容は以下のとおり

○発言者 星守夫（市民クラブ）

特に問題ないと考える。

○発言者 堀田孝一（志政クラブ）

本議案は、未来を担う子ども達の学力向上、特徴を持った教育、人間形成など、具体的な教育構想を実現するものであり、「基本構想案」は尊重すべきである。

○発言者 日下七郎（日本共産党角田市議団）

教育現場の声を尊重していないため、当局案には反対の立場である。現状、特例入学を認めたため、金津中の新入生が極端に少なく、現場・家庭では混乱が生じている。

○発言者 小湊毅（創生会）

児童生徒数、市の財政状況のみからの方針策定ではなく、学力向上、特徴ある教育、人間形成に向けた具体策、地域の在り方や廃校後も含めて方針策定されるべき。

○発言者 菅野マホ（令和の風）

構想を実現化する前に、もう少し時間が必要。「学校統廃合」は、市政・街づくりの重要課題であり、志もコンテンツの準備もないまま、進むべきではない。

○発言者 柄目孝治（無会派）

関係機関との協議により、教育委員会定例会で議決されたものと解している。今後は、子供たちの将来に向け、最善の姿を描くことが議会の役割と考える。

※自由討議とは？

言論が議会活動の基本であること及び議会が合議制の機関であることを十分に認識し、議会活動の公平性及び透明性を確保し、議員相互間の議論を尽くすよう努めるための制度

議会日誌

1月

30282316
日日日日
第13回 議会報告会（25日）
会派代表者会議
全員協議会・議会運営委員会
会派代表者会議

2月

2821 1914 127 5 4 1
日日 日日 日日 日日 日
かくだ市議会だより206号発行
議会運営委員会
総務産業常任委員会
交通安全講習会・議員研修会
第401回定例会招集告示
会派代表者会議
議員協議会・議会運営委員会
本会議（第1日）
会派代表者会議
議会運営委員会
本会議（第2日）
予算審査特別委員会（第1日）
議会運営委員会

3月

2 3 5 6
日 日日 日日 日
議会運営委員会
予算審査特別委員会（第2日）
議会運営委員会
本会議（第3日）
予算審査特別委員会（第3日）
予算審査特別委員会（第4日）
会派代表者会議
予算審査特別委員会（第5日）
総務産業・教育厚生建設常任委員会
本会議（第4日）
予算審査特別委員会（第6日）
議員協議会
本会議（第5日）・議会運営委員会
本会議（第6日）・議会運営委員会
議会だより編集会議

4月

10
日
議会だより編集会議

新型コロナウイルス感染症の予防等について

世界的に猛威をふるう新型コロナウイルスについて、宮城県内でも感染者数は日々増えており、本市でも十分な対策を市民の皆様にご講じて頂きたいと思っております。

新型コロナウイルスの感染経路は、感染者のくしゃみ、咳、唾等を吸い込んで感染する飛沫感染と、ウイルスが付着したドアノブ、手すり等に触れて感染する接触感染が主と言われております。感染した場合、潜伏期間は1日～14日間程度。平均5日とやや長く、感染しても8割は軽症で済むとされています。しかし、高齢者や基礎疾患（糖尿病、高血圧、呼吸器疾患、透析を受けている方等）のある方は重症化しやすいと報告されていますので、感染防止を意識した行動をとることが求められています。

1 予防と対策

手洗い、咳エチケット等の基本的な予防策（マスク着用等）に加え、不要不急の外出をしないことや、三密（密閉・密集・密接）を避けてください。

2 相談窓口

37.5度以上の発熱が4日以上続いている、強い怠さや息苦しさがある、味覚や嗅覚に変化がある等の場合（高齢者や基礎疾患のある方、妊婦の方は、上記の状態が2日程続く場合は）、下記の相談窓口にご連絡をしてください。ご家族の感染が疑われる場合も同様です。

<宮城県コールセンター>

TEL 022-211-3883、022-211-2882 24時間受付

<厚生労働省コロナウイルス電話相談窓口>

TEL 0120-565653（9～21時）

3 医療機関と受診ルート

医療機関にかけ込むと、医療崩壊の引き金になります。37.5度以上の発熱が4日以上続いている、強い怠さや息苦しさがある、味覚や嗅覚に変化がある等に該当する症状の場合は、相談窓口にご電話し、勧められた医療機関を受診することとなります。

編集後記

昨年の台風被害、そして今年の新型コロナウイルスと、心安まることのない今日この頃です。

議会といたしましても、一日も早く元の暮らしに戻れるよう、全力で取り組んでまいります。

当市の抱える様々な問題に対して、みなさんとともに考え、向き合い、更なる「開かれた議会」の実現に向けて取り組んでまいりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

議会だより編集会議

委員 星 守夫

6月定例会の予定

会期

6月12日(金)～6月30日(火)

本会議の日程（午前10時開会）

6月12日	提案理由の説明
23日	質疑・自由討議
26日	討論・表決・一般質問
29日	一般質問
30日	最終日

※日程は変更になる場合があります。

※新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、3月2日より当面の間、本会議等の傍聴を中止しておりますので、ライブ配信でご視聴ください。

請願・陳情の提出は

6月5日（金）まで

ライブ・録画配信をやっています

<http://www.kakuda-city.stream.jfit.co.jp>

インターネットを利用したパソコン・スマートフォン・タブレット端末及び市役所東庁舎1階の市民ホールのテレビでもライブ中継がご覧になれます。

また、インターネットによる録画中継の配信も行っております。



第401回(令和2年2月)定例会

傍聴者数 7人
インターネットライブ中継視聴者数 延べ1,288人

インターネット録画中継視聴者数
1月～3月 延べ763人